

## 滝谷 ドーム中央陵・第4尾根・クラック尾根 山行記録

■日時：2019年9月22日（日）夜発～9月27日（金）帰阪

■メンバー：中嶋宏幸、西川高士（記録）

■山域：北穂高岳・滝谷

■カテゴリ：アルパイン無雪期

■山行概要：

- ・9月22日（日） 新大阪駅（22：30）～さわやか信州号～上高地へ
- ・9月23日（月） 上高地（6：00）発～明神館～徳沢園～横尾～本谷橋～涸沢フュッテ（12：00）テント泊
- ・9月24日（火） 涸沢フュッテ（3：00）発～北穂高岳テント場（5：30着）～テント設営後（6：30）出発  
～ドーム中央陵取付き（8：00）～登攀終了（11：30）～テント場（12：00）
- ・9月25日（水） テント場（5：30）発～松濤岩の科尔からC沢下降（6：00）～第4尾根取付き（7：30）  
～登攀終了（14：00）
- ・9月26日（木） テント場（5：30）発～北穂高小屋を超えたB沢科尔から下降（6：30）  
～クラック尾根取付きへ崩落したバンド（7：10）～北穂高小屋で登攀終了（13：30）
- ・9月27日（金） テント場（6：00）発～涸沢フュッテ～本谷橋～横尾～上高地（12：00）

■詳細：

### 9月22日（日）上高地へ

中嶋さんと秋の3連休と絡めたりフレッシュ休暇を使って、アルパインに行こうと話をしたのが7月。日程的に1週間あれば、滝谷エリアで3本くらいと前穂北尾根のクラシックルートも予備日も入れて行けそうという計画をしていた。当初は21日（土）出発で、3連休で滝谷を計画していた船戸さんと小林さんに相乗りで上高地入りの予定を考えていたものの、秋雨前線の影響でこの3連休が難しいとなり、船戸さんと小林さんは計画を中止に。その後台風が発生し、土曜から日曜にかけて日本に近づくことと、台風が去っても回復が難しい天気予報のため中嶋さんと半ば諦め、滝谷は来年かなと考えていた矢先、中嶋さんが22日（日）夜発のさわやか信州号の上高地行きが取れたからと連絡があった。その時の23（月）は台風の影響で上高地での停滞も覚悟しながら、後半の天気回復の可能性が高い天気予報であったため、新大阪駅で待ち合わせをしてさわやか信州号に乗り込んだ。

### 9月23日（月）涸沢フュッテへ

バスが上高地に到着したのが5：30。上高地は小雨は降っていたものの風はそれほど強くなく、台風の影響もそれほどないなと思い、次の日のことを考えるとできればこの日のうちに北穂のテント場まで行ければと考えていた。6：00に上高地を出発してゆっくり行っても、15：00頃には北穂に到着できるなと思い、二人で早く着いても飲むだけやしと寄り道を重ねながら進んだ。まずは明神館。中嶋さんが昔この小屋に世話になったという話を交えながら、森田さんに教えられたという1杯200円のぶどう酒を奢ってくれた。0.5%くらいはアルコール入っているかなと言いながらジュース感覚で飲んでしたが、帰りに訊いてみると普通のワイン並みのアルコール度数だということが分かった。続いて徳沢では有名なソフトクリームを食べ、横尾でも休憩を取りながら、ゆっくり歩きながら、涸沢へ到着したのが、12：00頃であった。さすがにこの場所まで上がってくると、雨風が強くて、その後の北穂の天気予報を見ると、夜間に風速30m/s近い見込みでこんな日に稜線でテント泊はやめようということで、涸沢でテント設営。すぐに生ビールとおでんセットを食べながらこの日はまったりと涸沢で過ごすことに。

### 9月24日（火）滝谷ドーム中央陵

2：00起床、3：00にテントを撤収して出発。天気は薄曇りで風は弱まっている。ヘッドンをつけて、北穂穂高南陵を登り、5：30にテント場到着。ちょうどご来光の時間帯。見ると上空は青空、眼下には見事な雲海が広がっていた。富士山も近くに見えた。さすが我々以外のテントはなく、登山道から近く、平地にテントを設営して、6：30過

ぎに出発。事前に調べたとおり、一般縦走路を奥穂岳方向に向かい、ドームの頭を涸沢側に巻いた後の最初に出てくる鎖を降りたところにドーム中央陵の取付きへの踏み跡を確認し、7:00 にヘルメットとハーネスを装着し一般道から分かれた。踏み跡を辿り右下方向へ進み、不明瞭になった尾根越えのところで、ケルンを発見。このケルンは事前情報で「まだ下り」の合図であることを思い出し、そこから少し下って、右を確認すると懸垂支点を発見。そこから25m 懸垂し、踏み跡に沿って右に少し行ったところに、ネットでよく見たドーム中央陵の取付きに到着。準備をして8:00 登攀開始。1 ピッチ目西川リードで凹角左からチムニーの中を抜け、チョックストーンの上で切る。グレードIVながら、前日の雨の影響かチムニーの中がヌルツとして1回滑り落ちる。また、チムニーはザックを股下にぶら下げながら、何とか上り上がった。今日のドーム中央陵は表記グレードに比べ前日までの雨の影響かところどころ濡れており、2割増くらい難しさを感じた。2ピッチ目中嶋さんリード、カンテ上を登りカンテ左のスラブV。私はセカンドで登ったが、このスラブが濡れており、足のフリクションが効かずA0でなんとか乗り越えた。私はこのピッチがこの日で一番難しく感じた。3ピッチ目は大きな岩をいくつか超える歩きのピッチ。4ピッチ目中嶋さんリードで凹角から上部はチムニーIV。最終ピッチの5ピッチ目は西川リードでV。凹角を登りハングを右から超えるところがこのルートの核心部。ハングのところにハーケンが連打されており、A0で難なく超えて、終了。少し歩いて一般道に到着したのが11:30。



[北穂テント場から雲海と富士山]



[ドーム取付きへ一般道と分岐]



[取付きへの懸垂支点]



[ドーム中央陵取付き下部]



[2ピッチ目出だしのカンテ]



[4ピッチ目凹角]



[ドーム中央陵から一般道へ復帰]

## 9月25日(水) 滝谷第4尾根

4時起床。天気は快晴。この日のルートは今回の山行のなかでも最も長大で滝谷の懐の深さを感じるルート。この日も見事にご来光を拝み、5:30 にテントを出発し、松濤岩に向かい、小屋で水を補給しヘルメットとハーネスを装着。松濤岩から6:00 にC沢を下降。事前情報どおりの危険なガレ場。まさに岩の墓場を実感する。一足踏み込めば人の頭くらいの大きな岩がガラガラと崩れ落ちる。前後に他のパーティがいなくて本当に良かったと思う。途中で2カ所の懸垂支点を見つける。それぞれハーケン1枚のため1枚打ち足して懸垂でクリアする。1時間半ほど降りた辺りでC沢右又との二股に到着し、バンドをトラバースして第4尾根の取付きに7:30 に到着。そこから120mほどの3ピッチのやさしい岩と草付き。その後本格的な登攀を開始。尾根上に乗っていることはわかるがトポと比べてもいまいち曖昧である。カンテっぽいところがあると、ここがAカンテかなと思いながら、尾根上を詰めていく。わかりやすかったのは、ピナクル脇に伸びる凹角だが、この凹角が悪かった。持ちやすそうなガバはどれもグラグラ動く。今回の滝谷で最も脆いピッチじゃなかったかと思う。この後、ツルムの頭手前の懸垂支点に到着し、20m懸垂でツルムのコルに。その後傾斜の強い2ピッチで終了。その後草付きを登り一般道に合流できたのが14:00。C沢の下降から始まり途中のルートファイディングや変化のあるルート、脆い箇所全てを含めアルパインクライミングらしいクライミングができ充実した1日であった。



[朝日を浴びる松濤岩]



[C 沢の下降]



[C 沢二股から下降路]



[第4尾根取付き点]

## 9月26日(木) 滝谷クラック尾根

この日も4時起床。天気は快晴。取付きへは、小屋から10分ほど大キレットへ向かう途中にあるB沢のコルから下降する。ここには白ペンキでB沢入口という表記有り。ここでヘルメットとハーネスを装着し、6:30過ぎに下降開始。前日のC沢下降と比べけっこう早めの30分くらいでの下降で崩落したバンドを超えるフィックスロープが現れた。このロープを見るといくつもの落石を受け傷があるため完全には信用せずにビレイしながら登り返すことに。1ピッチ登り返したところに懸垂支点を見つけ、そこから左下方向に下降して崩落バンドの先に出る。そこから2ピッチほどの草付きを登り、あいまいな取付き点に。数ピッチ進んだところで、旧メガネのコルらしき場所に。そこから1ピッチ登り、核心部のジャンケンクラックはIVの左側に。しっかりしたホールドで快適なクライミング。その後西川リードで30mIV脆い凹角〜フェイス〜リッジを登るもロープ25コールが聞こえるもののビレイ点が分からず、目の前のフェイスを登りピークを越えたところで、ロープギリギリでハーケンが3本見つけそこで、ビレイ解除コール。セカンドで登ってきた中嶋さんにルートを間違えていることを指摘され、トポを確認すると、少し前のところのテラスでビレイし、その左側のガレ場に行くのが正解であったようだ。今回のミスルートはトポでのルート確認で1つ先のルートまで確認をして登ることを怠ってしまったことと、ビレイ点ではハーケンが打たれているなどのビレイ点不明瞭であるという思い込みがあったためである。そのため、一旦懸垂で40m下降し、正しいルートのガレ場に。ガレ場を上がり、大テラスからラスト2ピッチで小屋のすぐ下の登山道に戻ってきたのは13:30であった。今回滝谷で予定していた3本のルート無事完登でき達成感いっぱい北穂小屋で乾杯！さっきまで晴れていた空にガスが現れ、久々にブロッケン現象も見れた。



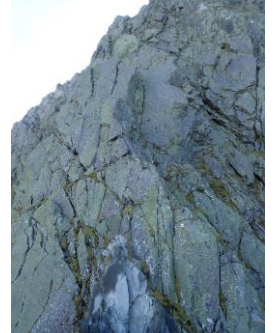
[B 沢下降の目印]



[B 沢のフィックス]



[旧メガネのコル]



[ジャンケンクラック]



[途中のビレイ点から大キレットと槍ヶ岳]



[北穂小屋からブロッケン現象]

## 9月27日(金) 下山

3泊過ごした眺望最高の北穂テント場を6:00に撤収し、下山開始。入山日と同じようにゆっくりと下山し徳沢のソフトクリーム、明神館のぶどう酒を飲みながら、上高地に12:00到着。温泉で汗を流しまったりと時間をつぶして、さわやか信州号で帰阪。

## ■感想・反省

今年の無積雪期アルパインの最終目標と位置付けていた滝谷であり、登る前には、緊張感と少しの恐怖感などを感じチャレンジでき、無事3本登れることで、自信もついた山行となり大変満足できた。いくつかの反省点もあり更なる成長の糧としていきたい。登り切った直後はアルパインはもうおなかいっぱいであったが、下山中の屏風岩を見て来年の目標を見つけて帰路についた。